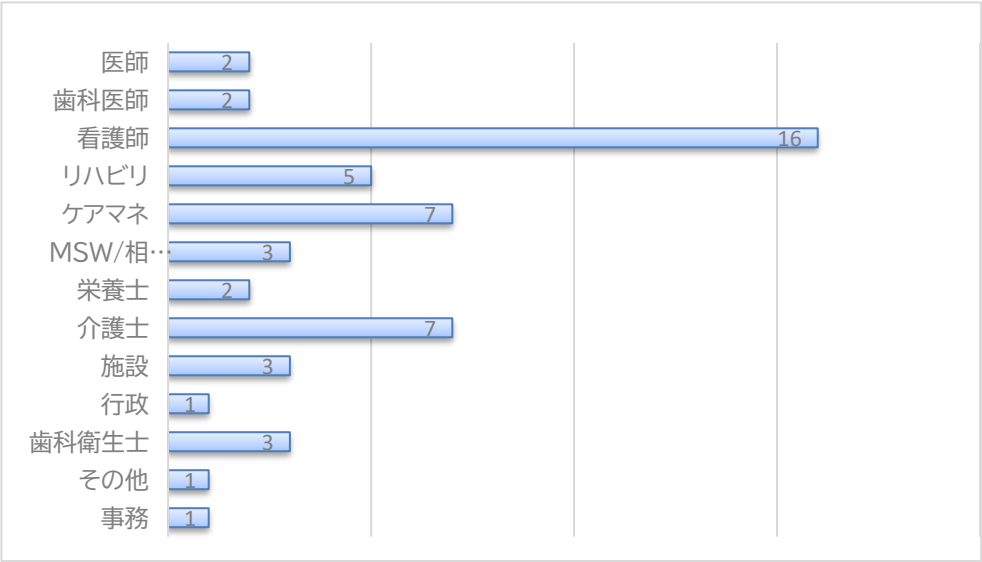
令和8年度　第2回戸畑多職種連携研修会

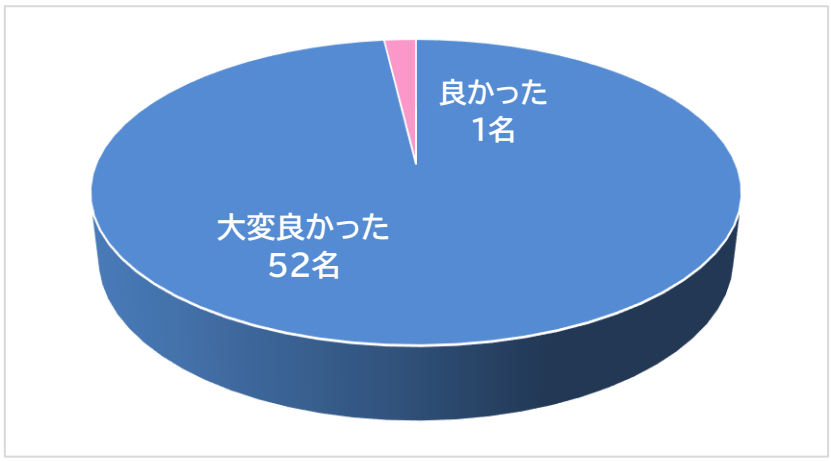
◆日　時:令和8年10月13日(火)　18時30分～20時00分
◆場　所:戸畑区医師会館　4階講堂
◆講演内容:「あなたにもできる！嚥下の評価とその対応～摂食嚥下機能評価法ASAP対面実技編～」
講師:戸畑リハビリテーション病院　リハビリテーション科　ST部門長
言語聴覚士　大森　政美先生
◆参加者:　59名　(内訳:講師1名、参加者55名、事務局3名　)
◆アンケート集計結果　　n＝53　回収率91.3%(講師除く)

1、回答者の職種分布



2、講演会の内容について

100%の方が「大変良かった」「良かった」と回答



あまり参考にならない　0人
参考にならない　0人

3、研修内で印象に残った事はなんですか？

〇実習
〇情熱をもって行動する。嚥下の勉強の大切さ確認しました。
〇座学は復習になり、実習は楽しかったです。
〇嚥下のメカニズムやしくみが分かりやすかった。意見多数
〇大変勉強になりました。施設で勤務しています。むせのある方、食事摂取量が低下する方がおられます。参考にしたいと思います。
〇評価スケールが、細かく項目があって誰が行っても評価しやすい。
〇トロミ水、プリン、水の嚥下音を聴いてそれぞれの違いにおどろきました。意見多数
〇ASAP、嚥下評価を実際に体験できたこと。 意見多数
〇嚥下障害のある方がテストでどのような反応が出るのか、動画があり分かりやすかった。意見多数
〇嚥下・摂食の資格に興味がありましたが、さらに興味が深くなりました。
〇嚥下評価を病態生理から理解しやすかった。実技を交えながら患者側の気持ちも知ることができた。
〇トロミ液を初めて飲水してみて、あまりおいしくないと思いました。トロミがきらいな人の気持ちがわかりました。意見多数
〇「この人嚥下に問題あるな」という観察ポイントを多数知ることができた。声を聞いただけで分かるという先生の専門性もすばらしいと思いました。嚥下に問題がある人は、なるべく早く相談することが大切だと再認識しました。
〇新人で、ASAPを今後使うことが多いので大変多くの学びを得ることができた。
〇点数であらわせる新しい評価方法を知ることができました。ASAP使ってみたいと思います。
〇嚥下の評価が複雑なものや専門的なもの以外に、スクリーニングや簡易的なものがあると知ることができた。
〇嚥下障害をSTだけではなく皆で発見できるような評価が大切だと感じた。早期に発見し、STが介入できるような視点が重要だと思いました。
〇食事の前にも口腔ケアを行うことが肺炎の予防になるという事を初めて知りました。肺炎の重症度が軽度のうちに、専門医へ相談するのが望ましいということが分かった。
〇嚥下外来
〇自分で体験することで、機能を維持すること。嚥下の姿勢等の影響についてよく理解することができました。
〇当事業所には専門職のスタッフはいないのですが、専門職でなくても簡単なテストが出来るのを知り、大変勉強になりました。
〇頭上げ体操でのどの筋力強化ができる。
〇介護職で評価ができること。
〇嚥下が良ければ、ごっくんとしっかり音が聞こえていた。普通に食べる、飲めることが一番。
〇嚥下のメカニズムを改めて学び、STでなくても取り入れられる評価を知りました。お会いする方で嚥下機能が低下している方は少ないですが、既往や身体の体型の背景に嚥下の視点も追加し気を付けていきたいです。
〇実習。せんべいの実習で障害があると飲み込むことが困難になることが実感できた。
〇現在に実際に行われていることを、やり方と評価を含めて教えて頂き、大変参考になりました。
〇嚥下のメカニズムⅤ期の分類。実践できたのでイメージすることができました。

4. 研修の中で今後活かせることはありましたか。
〇嚥下訓練や評価を再確認した。
〇全部
〇ASAPの点を示せば、家族も嚥下調整食をすすめるにあたり、客観的な評価として説得力があると思いました。嚥下の診療の経験が少ない歯科医師に活用して頂きたいと思います。
〇嚥下のメカニズムⅤ分類で、どこに障害があるかを確認していきたい。意見多数
〇ASAPを実際に評価したい。意見多数
〇食事の様子の観察、お茶をのむ、むせ、など全く気をつけていなかったところをきちんと見る、早期の時期に早く専門家につなぐことが大切と学びました。
〇早めにSTに相談したいと思いました。まだ大丈夫かな、こんなことで相談していいのか迷わなくて良いことが分かりました。
〇私たちは患者さんに当たり前にトロミ水を提供しているので気持ちが分かった。
〇飲み込みが悪い患者に実際に指を使って飲み込みがいいか確認したい。
〇とろみをつければよいということではなく、正しい姿勢であったりとした、食べる以前の問題を解決してから考えていく。
〇誤嚥の分類に沿ってどこの障害か考えながらケアしようと思いました。意見多数
〇いつもSTさんに任せていましたが、できるところは自身でも行いたいです。口から食べれる間は食食べれるように援助していきたいです。
〇嚥下外来対象の患者があれば相談していきたい。
〇「嚥下に困った人」どこに相談して誰につなげばいいのかその連携を知ることができて助かります。
〇学生では知ることのなかったASAPを今回改めて知ることができた。研修だけではなく、患者様を相手にした時もすばやく評価できる、活かせると思いました。
〇ケアマネさんに嚥下機能低下の指標、観察ポイントを伝えST依頼の目安にしてもらいたいです。
〇訪問リハビリに携わっているので在宅でのムセ等に対して必要に応じASAPを行えるようにしたい。
〇支援の中で嚥下障害の視点をもって関わりたいと思います。
〇指を使った飲み込みの確認や30秒間飲み込みの回数を行うことで嚥下の状態確認を行っていこうと思います。
〇嚥下障害があるかないかの評価ができると思うけど専門職と行いたい。
〇顎引き体操はリハビリの一環で手軽にできるので取り入れたいと思いました。食事前の口腔ケアも実施していきたいと思います。(小多機通所にて)
〇在宅の方ですごく食事が遅い方がいる。その方の食べ方を確認してみようと思います。もしかしたら嚥下外来につながるかもしれません。
〇頭上げ、顎引き、ブクブク体操をご利用者さんと一緒にやってみます。意見多数
〇イートテンも利用者にも使ってみたいと思っています。
〇患者さんの食事状況を見る時には今日学んだことを思い出し注意深く見てみようと思います。
〇高齢者施設であるため、食事中は大変気になる点が多いため、注意・観察する。
〇ASAP評価を取り入れ、入居者の嚥下状態を把握できることが活かせると思いました。
〇とろみをつける際の参考にしたい。
〇食事前の体操、姿勢、口腔ケア。
〇お客様へ調理時の食品の形状の具合、予想ができるようになった。
〇嚥下の評価のある程度の指摘目安が分かりました。70歳、これからの低下が気になる所です。
〇嚥下の状態をみるポイントが理解できたので、今後の食事形態見直しに活かしていきたい。
〇高齢者の飲水でのむせはよくあることと思っていましたが、そのままにせず、食事内容等も確認し、早期に関係機関に相談したいです。
〇頚部聴診法も分かりやすく教えて頂き今後に活かしていけたらと思います。
〇食事をする際の注意点について学べましたので、介助する際は取り入れていきたいと思います。

5. 今後取り上げてほしいテーマがあればぜひ教えてください。
〇移乗（介助の手技）や、移動（介護タクシーや昇降機）の支援について
〇ACPについて
〇心臓と栄養　事例検討会、在宅医との懇話会
〇栄養サポートに向けたSTとしての関わり方
〇今回のような体験型のものがあれば理解しやすいと思った
〇食事場面における嚥下機能評価法もやっていただけたら嬉しいです
〇認知症の予防についてと、認知症の薬の効果と注意点についてなど

以上原文のまま記載